

災害ボランティア活動報告(No.30)

活動場所:宮城県亙理郡山元町作田山（被災農家：斎藤様の農地）

活動内容:今回は、男性・女性とも畑の後片付けをしました。ピーマンとナスの収穫後の枯れ木（1m～1.2m 位の枯れ木のようになっています。）を畑から引き抜き、片付け。貼ってあるビニールを引き抜く作業です。

約 2,000 本の枯れ木のクリップを外し（茎が実をつけて垂れ落ちないように取り付けています。）畑に貼ってあるビニールは、溶けないので綺麗に外します。これがなかなか手間のかかる作業です。なにせ畑の土に両端が埋まっているので、スコップで土を剥ぎながら捲っていく作業になります、力を入れすぎるとビニールが破けます。するとその土を掘って剥がすようになり大変でした。

農家の方々は、これを毎年やっていると思うと、農作物がいかに手間暇かけて作られているのかが分かります。ある主婦のボランティアの方が、少しぐらいで『高いのなんの』と言えないわね、と言っていました。実感がこもっています。農家の方々に感謝です。

ぜひ、お子さんとボランティアに来てください。『生きとし生けるもの』これから、食事の前の『いただきます。』が心から言えるお子さんになるでしょう。それだけでもボランティアに来る意味があります。

参加者:メンバー（木下史典、森本次郎、岩瀬清、榎戸孝行、大川浩明、本田健）、一般参加、ネット参加の皆様。（合計 36 名）

活動報告:夏休み『親子で震災ボランティア体験』in MIYAGI、ボランティアバス第 12 弾です。今回も『ボランティアの成果が見える、足跡の見える支援』を心がけているため、斎藤様の農地に行かせて頂きました。

行程:総勢 36 名で、12 月 6 日金曜日の夜に、千葉県四街道発で、西船橋駅、錦糸町：錦糸公園経由で現地山元町へ向かいました。今回は、定員に達していたのですが、キャンセルがあり 36 名でした。内一名の方は仕事で当日来れなくなり、同僚の方がキャンセル料を支払っていました。（キャンセル待ちの方がいても、1 週間以上前でないとは参加は難しいですね。バス代も値上がりし、若干の赤字でした。）

12 月 7 日土曜日、今回も朝食を吉野家で取りました。安いし早朝から営業しているのはここだけです。その後、コンビニに寄ってから（いつものセブンイレブンですが、工事車両やダンプの運転士さん達で混み合っていました。こんなことは初めてですが復興工事が盛んになったようです。）建物の保存が決まった旧中浜小学校を視察しました。遺構として残すことになったのは、ここだけが死亡者がいなかったからだそうです。

前回、斎藤さんに教えて頂いたのですが。旧中浜小学校に娘さんが先生をしていて、震災当時は育児休暇で実家に来ていたので助かったそうです。震災で崩れた小学校を見ると、育児休暇中で良かったと思うと共に斎藤さんご夫妻との縁を感じずにはいられません。



※今回参加された 36 名の皆さんの集合写真です。(被災した旧中浜小学校前。)

※下段写真：被災現場の旧中浜小学校前にお花を咲かせようと作業されている地元の皆さん、他からもボランティアの方が来ておられました。前回お会いした地元の語り部の方が、震災で殺風景になったこの場所をお花でいっぱいになりたいと語られており、今回作業をしておられました。(頭がさがる思いです。)



※上段の写真：左は今回の作業。ピーマンやナスの枯れ木（ホント枯れ木ですよ。）の撤

去。実が付いたままなのは、出荷できない形の悪い物や色褪せ変色した物などです。まだ食べられる物などあり、ボランティアの皆さんで頂きました。この枯れ木が2,000本、大量の廃棄されるピーマンやナスを見て、世界中に飢餓で飢えている人々がいる中で、飽食を続けていいものか。考えさせられました。ビニールは、この枯れ木の下に貼ってあります。写真右は、片付けられ綺麗になった畑です。



※上段：左写真：斎藤さんから、休憩中に柿の差し入れが有りました。とっても美味しかったです。残ったものはおみあげとして頂く。

右写真：今年は、斎藤さんのところでは白菜がよく育ったとの事で、持って行ってくれと言われ。皆さんで頂く分を収穫いたしました。いつも斎藤さん有難うございます。



※上段：左写真：サンタさん（森本副理事長）より、いつもお世話になっている斎藤ご夫妻へクリスマスプレゼント（森本副理事長の会社：センチュリー21 プライムさんから、と四街道ロータリークラブさんからの寄贈）をお渡りする。

右写真：今回で10回もご参加して下さっている本田 健さん（写真）が会員になりました。有難うございます。いつもボラバスの帰り道、今回のボランティアの感想や総括を参加者全員の方々にお話して頂く。また参加したい、良かったと言われる方が多かったですように思います。まあ、批判する方は多くはいませんから。慢心せず、これからも参加したいと思われるボラバスを目指してまいります。皆さん、ぜひ、次回もご参加下さい。